

20の講義内容 注釈書類の引用文献

—その1 漢詩・漢籍資料及び仏典類—

これまで幾つかの本邦資料における注釈書の類を例にして、その記述状況を具さに眺めてきた。ここで引用されるところの漢詩・漢籍、仏典類を基調に考察しておくことにする。

- 1 『遊仙窟』〔醍醐寺本〕 ↓ 『倭名類聚抄』十四條
- 2 『漢書食貨志』〔國寶〕
- 3 『古文孝經』〔三千院本、古典保存會複製〕
- 4 『春秋經傳集解』〔卷第十、國寶〕
- 5 『瑠玉集』〔國寶〕
- 6 『一切經音義』

を揚げている。此外に『白氏文集』や『文選』そして『論語』『千字文』は云うまでもなからう。1の『遊仙窟』の本邦国語資料への影響は、源順の『倭名類聚抄』に留まらず、多くの文献資料に引用されてきている。だが、2345の資料となると、貴重書ということもあつてか、その引用の広がりには僅かに過ぎないのも事実である。6の『一切經音義』すなわち、唐僧玄應撰『大唐衆經音義』も僅少であろう。

佛經注釈資料では、『弘決外典鈔』が知られる。天台宗三台部『法華玄義』『法華文句』『摩訶止観』の一つである『摩訶止観』の義を注釈したもので、唐の妙藥大師湛然が撰述した資料であり、

弘決外典鈔卷第二

予感 金澤長老弘法之志

弘安七年六月十五日辛作

讀之餘暇 文合他本 芟除脱

誤之畢於點者敬也 明
眼之人誰不傷嗟奈何

相似佛子 圖種記

『法華玄義釋籤』『法華文句記』と並び称せられる注釈書である。「弘決」とは、正式には「止観輔行傳弘決」と称し、原著十卷をさらに四十卷に分巻して説くところとなつている。この編纂者の博覧強記なる書籍引用の解明は容易でなく、「弘決」と云う。この「外典」即ち「漢籍」について出典を明らかにし、注釈を加えた書物なのである。この筋からすれば、此の資料も漢籍読解による書物であり、清國の楊守敬『日本訪書誌』がこの書物を閲覧し、その漢籍資料の片鱗を縷述している。この現存する写本は、本朝の具平親

王撰によるもので、僧賀聖人の手を擁した資料でもある。この古写本は、山田孝雄博士が憂うるように、「金澤文庫本の貴重すべきは言を待たざれど、この本不幸にして第四巻を缺き、その他になほ些少の缺脱あり」と云う。

次に、この山田博士によって刊行された影印資料本を参照しながら、その漢籍の引用とその注釈の内容の一端をここで学習していくことにしよう。

序文の末尾に「猶今章安ト与ニ妙樂トノ焉于時ニ正暦二年二月二十九日也」と識語する。この古写本の写しについては、「弘安七年六月十五日乘侍次讀之餘暇交合他本芟除脱誤之畢於點者散々也明

眼之人誰不傷嗟奈何々々 相似佛子 圓種記」と卷第二の末尾に見える。

序文の次に、外典である漢籍名を順に列挙している。実際は、この標記の書名漢字にはそれぞれ声点が付されているが、今は省略して記載しておく。

- 周易十卷 鄭玄玉弼各注
- 尚書大傳三卷 漢伏生撰鄭玄注
- 尚書洪範五行傳論十一卷 漢光祿大夫劉向撰
- 周禮十二卷 鄭玄注
- 禮記二十卷 鄭玄注
- 大載禮記十三卷 漢信都王大傳載德カ撰見在書ノ目錄ニ不見
- 毛詩二十卷 漢河間大傳長傳鄭玄カ箋
- 春秋左氏傳三十卷 杜預注
- 論語十卷 何晏カ集解

以下、簡略に記載しておく、「爾雅三卷」「白虎通十五卷」「史記八十卷」「漢書百二十卷」「後漢書百三十卷」「三國志六十五卷」「晉書百三十卷」「國語二十一卷」「春秋後語」「山海經二十一卷」「老子經二卷」「巖子三十三卷」「管子二十卷」「孟子十四卷」「大玄經十三卷」「列子八卷」「尸子二十卷」「淮南子四十二卷」「牟子二卷」「劉子注十卷」「呂氏春秋二十六卷」「說苑二十卷」「風俗通三十二卷」「博物志十卷」「異物志」「顏氏家訓七卷」「古今佛道論衡四卷」「國清寺百錄五卷」「甄正論三卷」「辨正論八卷」「笑道論三卷」「心鏡十卷」「破邪論一卷」「破邪論二卷」「二教論一卷」「修文殿御覽三百六十卷」「孝子傳十五卷」「廣雅四卷」「玉篇三十卷」「通俗文一卷」「蒼頡一卷」「說文解字十五卷」「釈名八卷」「埤蒼二卷」「字統二十卷」「大公六韜六卷」「七曜圖」「神農本草三卷」「新修本草二十卷」「文選六十卷」／次の「年代略記」へと続く。

『玉篇』〔三十卷・陳ノ左將軍顧野王撰〕と『文選』〔六十卷・梁ノ照明太子撰李善注〕には、

玉篇三十卷 陳左將軍 顧野王撰
文選六十卷 梁照明太子撰 李善注

大槩横流 極音美 玉篇云
救也 文選鈔云横流謂不依理而縱横流溢以害民也

救之日夕 救子辞反玉篇
救之日夕 救子辞反玉篇

○救々々 日夕 救ハ子辞反。玉篇云救々々不怠也。

懦毳細毛以自溫也 懦音儒毳尺銳 ○玉篇云

山神爲魑魅 水神爲魍魎 西京賦云山神虎形 爲魑宅神猪頭人形爲魅 通俗文云木石變怪

○「玉篇」云「の部分から、版本と次の古写本部分と比較しながら、実際に訓読してみよう。

玄皆生穠毛毳細毛以自温也。穠音儒皆生 玉篇玄山神為

魑魅水神為魍魎西京賦玄山神庸秋為魑宅神

諸頭人秋為魅通俗文玄木石變岬為魍魎論語第

九有狂人梅輿見孔子領徒而行乃為歌曰鳳兮

何德之衰。皇侃曰梅輿楚人也姓陸名通字梅輿昭王時政令無常乃被駭陽往不仕時人謂之為楚狂也時孔子適

楚而梅輿行可從孔子小雅玄雄曰鳳雌曰凰意行孔子

食者其文則得氣宜人無灾厲也。已上此間古者

以獲為畋者取狩也則四時不同春蒐蒐擇其不

音所獲苗為苗秋獮獮教順秋氣而冬狩狩守也守今以

○此間古者以獵為畋者取狩也。則四時不同。春蒐蒐擇其不懷

也。守而取也。音所流反。夏苗為苗除害。秋獮獮教順秋氣而致音思踐反。冬狩狩守

也。守而取也。この注記の引用文は、典拠が未記載にあるところで、訓詁辞書『尔雅』三卷十九篇の积天第八祭名の條からの引用部分である。